Ⅷ　「田上の12か年教育」を見てきた方々の評価

安中教育長は、「田上の 12 か年教育」の構想からご尽力をいただきました３名の方々にインタビューしました。以下は、その要旨をまとめたものです。

インタビュアー	田上町教育長　　安中　長市	
インタビューイ	田上町前教育長　　丸山　敬	
	田上町教育委員(教育長職務代理者)	石田　一平
	田上町立竹の友幼児園長	白井　貞一

田上町前教育長　　丸山　敬

安中…　丸山前教育長さんは、平成 21 年１月に教育長に就任され、１年間で「田上の 12 か年教育」の構想を立ち上げられましたが、当時、どのようなお考えがあったのでしょうか。

丸山…　私が平成 21 年１月に教育長に就任した時に、次の年から開園することになっていた竹の友幼児園の３歳児からの３か年と小・中学校を合わせた 12 か年で、田上の教育を推進していこうと考えました。５歳児の１年間をあずかっていた竹の友幼稚園と６つの保育園が一つになるのに際し、幼児園では、保育だけでなく教育することも大切だと考えたのです。また、当時の田上中学校の全国学力・学習状況調査の結果から「自尊感情」と「生活習慣」の２項目が全国平均と比べて大変低く、その解決には、小学校はもちろん幼児園から連携する 12 年間という期間が必要だと思ったのです。幼・小・中の連携を縦軸に、家庭・学校・地域の連携を横軸とする構想でした。（Ｐ１参照）

安中…　私は、平成 22 年度から田上中学校に校長として赴任しました。当時の田上中学校生徒の自尊感情の数値が、全国平均に比べて 20 ポイントも低かったことに驚いたことを覚えています。自尊感情については、小中学校とも大きく改善されましたね。（Ｐ14 参照）

丸山…　12 か年教育を実施するには、町の材を総動員して田上の子どもを育てることが肝心だと考えて「田上の子は田上で育てる」こととしたのです。併せて、12 か年かけて育てる力を評価するための行動指標を誰もがわかりやすい内容にすることにしました。

安中…　平成 22 年度に、12 か年教育の具体的な立案のために幾度も集まって検討し合いましたが、育てる力を何にするか決めるのにかなり議論しました。それが、「しっかり聞く」「自分の考えをもち伝える」「役割をはたす」「明るいあいさつ」の『４つの行動』（Ｐ１参照）ですね。

丸山…　この４つの行動については、後で経年比較ができるように、子どもと教員によるアンケートで毎年評価してきました。私が印象深かったのは、12 か年教育の１年目に、中学校の生徒のあいさつが大変良くなり、それに伴って問題行動が大きく減少したことです。

安中…　私が田上中学校に赴任したその年に、何人かの部活動顧問が「学校をあいさつで変えよう」と部員に提案して、運動部の生徒が廊下で朝から晩まで大きなあいさつをする様になり、数か月で「あいさつあふれる田上中」に変容しました。この４つの行動については、この数年間で園小中学校の教員の評価が大きく向上しましたね。（Ｐ５，６参照）

丸山…　子どもたちを毎日見ている教員の評価が一番信頼度が高いと考えられますので、教員の評価が向上したのは、実際に子どもたちの『４つの行動』が改善された成果だと思います。

安中…　県内の全ての市町村を調べたわけではないのですが、市町村内の小中学校を対象に独自の同じ質問を 12 年間も続けている事例はあまりないと思いますが。

丸山…　だからこそ、価値のある取組だと思いますね。

安中…　キャリア教育を 12 か年教育の基盤にしたのは、どうしてでしょうか。

丸山…　子どもたちが「家庭で育ち、学校で学び、社会に羽ばたく」には、地域と連携して、園学校での「社会性の育成」が重要だと考えたからです。総合学習はもちろんですが、学校の教育活動全般で取り組もうと思いました。
「田上町キャリア教育推進委員会」を発足させ、評価と今後の推進を図りました。また、平成 29 年度から田上版のコミュニティ・スクールを導入しました。（Ｐ２参照）

安中…　その結果、各学校の総合学習を中心とした体験活動が活性化しました。特に、田上中学校の２年生の職場体験の充実につながったのですね。

丸山…　そうです。中学校だけでなく、３校共に地域に結び付いた体験活動を「社会性の育成」という共通の方向を意識して進めてくれました。

安中…　12 か年教育の最初の３年間は、幼小の連携に力を入れましたね。

丸山…　当時「小１プロブレム問題」がどの市町村でも課題になっていました。卒園後に、小学校への環境の変化に対応できない児童がいたのです。
そこで、幼児園では小学校への「アプローチプログラム」として、５歳児は 10 月頃から早寝早起きを推奨したり、お昼寝の時間をなくしたり、集団活動を増やしました。小学校では「スタートカリキュラム」として、１年生の１学期では一日１時間の自由遊びを入れるようにしたり、上級生との交流を意図的に入れたりしました。
田上小学校の校長で退職され、竹の友幼児園の園長に就任された有本久美子先

生が中心になって実践を積み重ね、文部科学省で実践を発表したり、県の幼児教育の冊子に紹介されたりしました。（Ｐ３参照）

安中…　現在は、田上町教育研究協議会の「幼小連携部」が中心になり、毎年評価して現場に即した実践に改善しています。

丸山…　「生活習慣」「家庭での学習習慣」の確立のために、「わが家の約束」に取り組みました。園小中学校、全家庭を対象に三行詩を応募して、優秀作は町独自で表彰しました。同時に、日本ＰＴＡ全国協議会が主催する「我が家のルール標語」に応募しました。最初の年から、応募数約５万６千の中から全国４位の賞をいただいたのを始め、毎年、県や全国に入賞者を出しました。平成 30 年度には、全国１位の文部科学大臣賞も受賞しました。

安中…　最初の平成 22 年度の町の審査会で「我が家のルールはお母さんの言葉」という作品が目に止まり、私は思わず笑顔になったことを思い出しました。「我が家の約束」の活動は、現在も続けていて、毎年のように全国上位に入賞しています。

平成 30 年度から、教育委員会に保健師を配置しましたが、どのような考えでの配置だったのでしょうか。

丸山…　障がいがあったり、不登校等だったりする支援が必要な子どもへの対応は、子どもだけでなく家庭への支援も必要だと考えたのです。そこで、平成 28 年度から訪問教育相談員を、平成 30 年度から教育委員会と保健福祉課を兼務する保健師を配置しました。訪問教育相談員には主に学校と連携して不登校児童生徒の対応を、保健師には主に保健福祉課と連携して障がいがある子どもや児童虐待等の家庭への対応をしてもらうことにしました。

安中…　訪問教育相談員と保健師の２人は現在もタッグを組んで、児童相談所等の関係機関と連携をしながら、子どもや保護者に寄り添って、訪問したり相談を受けたりしています。

丸山…　私は、これからの「田上の 12 か年教育」は、町の「目指す子ども像」（Ｐ１参照）にある「志をもつ」ことがキーポイントだと思います。田上の子どもたちが「将来どういうふうになりたいか」を考え、その実現のために頑張っていく、そういう子どもの育成を目指してほしいと思います。

これから求められる人材は、オールラウンダーではなく、一つのことに突出した能力を持つ人材だと思います。「突出した能力」を持ち、「コミュニケーション能力」も併せ備えた人がこれから求められる時代だと思います。

田上町教育委員(教育長職務代理者)　　石田　一平

安中…　石田教育委員さんは、平成 21 年 10 月から教育委員に就任されました。次の年から「田上の 12 か年教育」がスタートしたのですが、当時、どのように受け

止めておられたでしょうか。

石田…　「田上の 12 か年教育」の構想の説明を聞いた時は、すばらしいと思いました。しかし、同時に実際にどれだけ実行できるのかと不安もありました。その後、１年間でパンフレットが作成され、着々と実行していきました。当時の教育委員会のスタッフや園校長会・教職員の皆さんの努力の賜物だと思います。

安中…　それから 12 年間、どのように変わっていったと思いますか。

石田…　「12 か年教育」の考え方というのは、背骨がシンプルで誰もがイメージしやすいし、身に付けさせたい能力や行動の観点を最初から具体的にしたのがよかったのではないでしょうか。

田上町の教育では目指す方向が決まっているので、転入された先生方も、方向性がはっきりしていて取り組みやすいのではないでしょうか。また、３校とも同じ力を育てていくといった共通目標があるので、学校間の意思の疎通がしやすいのだと思います。

私が 20 年ほど前に中学校のＰＴＡ会長をした時に比べ、各学校のＰＴＡ理事同士も連帯感があると思います。生徒も先生方も保護者も「田上の 12 か年教育」が支えになっていると思います。それは心の支えといってもいいと思います。

安中…　教育委員の皆さんは、年に何回か授業の様子もご覧になる機会がありますが、子どもたちの様子はいかがですか。

石田…　以前は、先生の説明を聞いて、板書をノートに写すという授業が多かったのですが、最近は、ペアやグループで話し合いをしたり、自分の考えをまとめて発表したりするという授業が多くなったと思います。

安中…　主体的な学びを目指しているので、そのように受け止めていただけるとうれしいです。でも、「自分の考えをもつ」ことがまだまだ弱いと思っています。昨年に導入した一人一台のタブレット端末を効果的に活用していきたいと考えています。

石田委員さんは、今後、田上の 12 か年教育はどうあるべきだと思いますか。

石田…　大きな柱は変える必要はないと思います。今後も今までと同じ質問をして、その経年変化に応じた対応をする必要があると思います。それと、子どもたちを、大いに褒めて認めて育てていただきたいと思います。

竹の友幼児園長　　白井　貞一

安中…　白井園長さんは、平成 24 年度から３年間、田上小学校の校長をされて、退職後、平成 28 年１月から竹の友幼児園長に就任されていますが、「田上の 12 か年教育」をどのように受け止めていますか。

白井…　「田上の 12 か年教育」は、10 年たっても色褪せることなく、むしろ色濃くな

っているように感じます。構想が国や県の考え方の延長線上にあるので、大きな修正をせずにこれたことと、１園３校というコンパクトさが連携しやすかったのだと思います。

先生方は転勤で入れ替わっていきますが､転入してきてもすぐに何をしていけばいいかが、わかりやすい指標になっていると思います。

また、園学校と教育委員会の連携が本当にうまくいっていると感じています。町教育委員会が現場の困り感をわかっていてくれているので､何かあってもすぐに具体的な対応ができるのだと思います。

安中…　私から言えば、園学校の先生方が、田上町の子どもたちのために熱意と愛情をもって、日々教育にあたってくださっていることがバックボーンにあるので、何事にも対応できるのだと思います。コロナ対応をどうするのかも、すぐに集まってしっかりと話し合い、皆さんが納得した中での対応ができたと思っています。

白井…　幼児自身の自己評価は難しいですし、教職員は入れ替わりがないので、他園との比較ができないという面があります。それでも、ここ数年で園児のあいさつが格段に良くなりました。朝、園児の「おはようございます」というあいさつを聞くと元気がでます。子どもらしい明るい大きな声のあいさつは、園児の心が開放されている表れです。

安中…　現在の幼小連携は、どのようになっていますか。

白井…　他市町村に先駆けて取り組んできたアプローチカリキュラムは、ほぼ根付いてきていて当たり前の取組になっています。取組の幾つかは、少しずつ状況に沿った対応に変容しています。

安中…　最初、６つの保育所が一つになり、課題も多かったのではないですか。

白井…　最初は、園児たちの保育教育方針も確立されていなくて、苦労されたようです。その後、有本前園長が方針を出され、研修をしながら改善に努めて、園児たちもまとまりがある行動がとれるようになっていきました。教職員も、毎日の園児や保護者対応の中で、学び成長していったのだと思います。大勢の職員で考えを出し合って改善してきました。

安中…　私も外から見ていて、同じ感想をもっていました。現在は、園児の主体性をより重視した活動を目指していますね。

白井…　「子どもが主体」であり、「遊びが子どもを育てる」ことに本気で取り組んでいます。

安中…　竹の友に保育参観に行きますと、一昨年前までは、園児が行儀よく椅子に座って絵を描いたりしていましたが、昨年からは、園庭や遊戯室、各部屋で自由にのびのびと遊び回っています。どの園児も目が輝いていて本当に楽しそうです。

白井…　幼児は、遊びを通して他者と関わって、様々なことを学んでいくのだと考えています。職員は、子どもが安心して主体的に遊ぶことができる「環境づくり」に努めています。その中で、忍耐力や社会性、感情コントロールといった能力を育めればと考えています。

安中…　私は、竹の友が実践している様子を小中学校の先生方に見てもらいたいと思っています。「子どもを育む」原点が竹の友の実践にあると思うからです。
今後の田上の教育はどうあればいいと思いますか。

白井…　「自由にさせすぎるとわがままになる」と考えるのは間違いだと思っています。自分がやりたいことを決めて、とことん遊び込む時に、他者との折り合いが必要になることを、体験を通して学んでいくからです。私どもの実践は始まったばかりですが、小中学校の先生方からも見ていただき、参考にしていただいたり、意見を聞かせていただいたりできればと思います。

◇　インタビューを終えて　……　安中長市教育長　◇

スタートして 12 年間が経過した「田上の 12 か年教育」を評価するに当たり、積み重ねてきたアンケート結果や数値の経年変化と併せて、長きに渡って関わってこられた３人の方からお話を伺うことにしました。これまでの「12 か年教育」の取組に対する考え方や取組内容、子どもたちの変容が見えてくるのではとないかと考えてインタビューをさせていただきました。

３人の方が共通に話されていたことは、「12 か年教育の構想は、教育の本筋に沿っていて、子どもに求める行動が、教職員も保護者も子どももイメージしやすい」ということでした。

私がインタビューをしながら考えていたことは、子ども側から考えると、１園３校が同じ方向で教育活動を実践していることと、さまざまな園児・児童・生徒の交流の機会を通して、田上っ子としてのアイデンティティが生まれているのではないかということです。教職員側から考えると、園の実践が小中学校の刺激になり、中学校の家庭科の保育実習が園児の楽しみになり、園の励みになる。小学校の丁寧な授業を参観して中学校の先生方が学び、中学校の専門的な授業から小学校の先生方が学ぶ。これこそが「田上の 12 か年教育」だと思いました。

生涯学習や施設管理等を含めた全体的な評価は、町の総合計画や毎年実施している「教育事務評価」に譲り、本評価は「田上の 12 か年教育」の構想とその取組、それに伴う変容や成果、課題に焦点を当てた評価に特化しています。

評価の内容については、教育委員の皆さんに意見をいただきながら進めました。

教育委員の皆さんから、「子どもに身に付けさせる『５つの能力』については、『４つの行動』からの評価以外に、ひとつひとつの能力を評価する規準づくりが必要ではないか」という意見もありましたが、今回の評価に生かすことはできませんでした。また、「子どもに発表の場を設けて 12 か年教育の成果を確認できればいいのではない

か」という意見もいただきましたが、この２年半のコロナ禍で思うようにいきませんでした。

年に何回も授業や各種行事を参観して、具体的な田上っ子の課題も議論してこられた教育委員の皆さんのご意見は大変参考になりました。しかし、それ以外の外部の方からの評価の場面を設定できませんでした。「12 年間での子ども変容」についての評価と考えて、多く現場を見てこられ直接関わってきた方という視点に囚われすぎたのかもしれません。今後の「田上 12 か年教育」の評価には、保護者を含めた外部からの評価を取り入れた仕組みづくりをすることが課題です。

不登校対策、いじめゼロに向けた取組、自ら考える子どもの育成等、現場での課題はたくさんありますが、今回の評価を礎に、田上町の宝である子どもたちが、自分の夢や希望に向かって自信をもって進んでいく「田上の 12 か年教育」を構築していきたいと思います。